

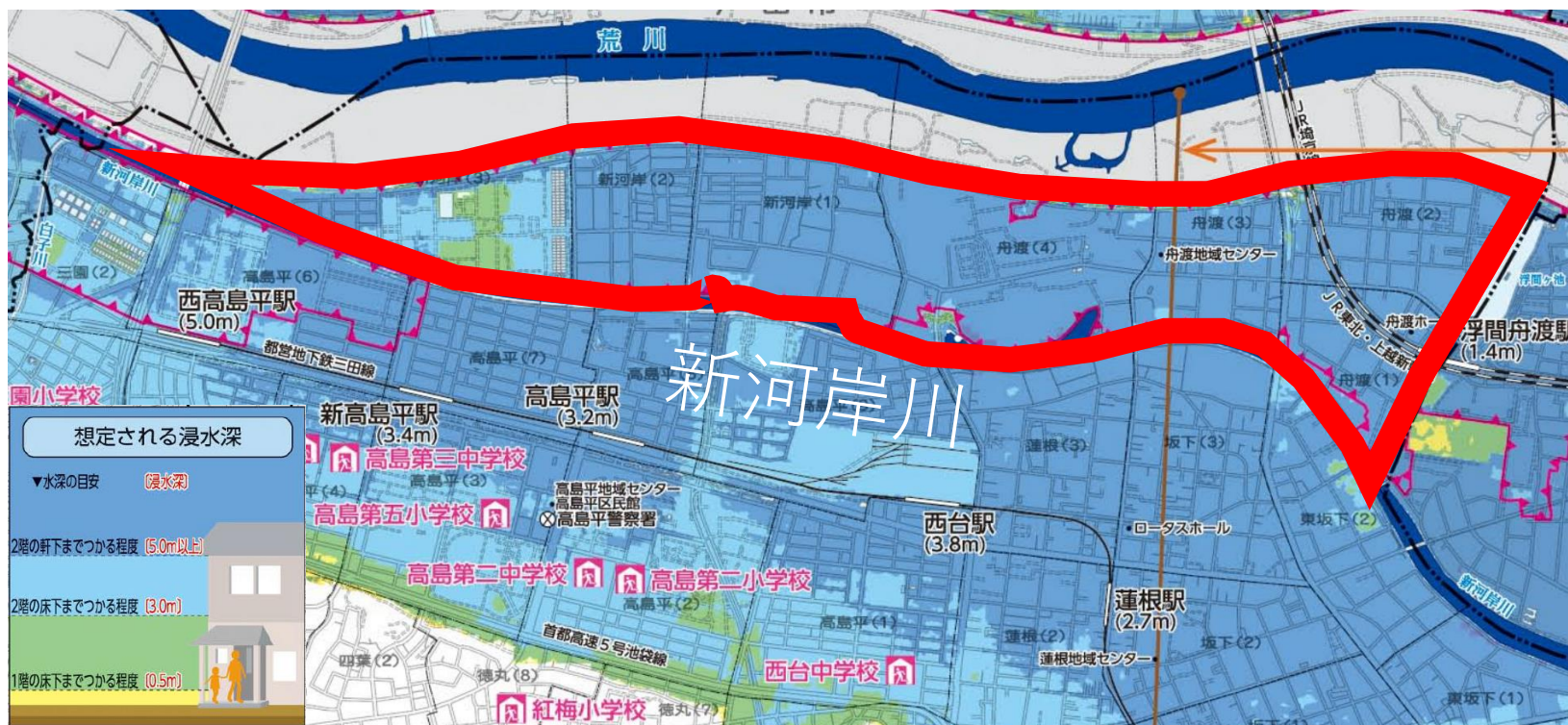
板橋区かわまちづくり計画の概要



板橋区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

(3) 板橋区モデル地区の概況について 舟渡・新河岸地区

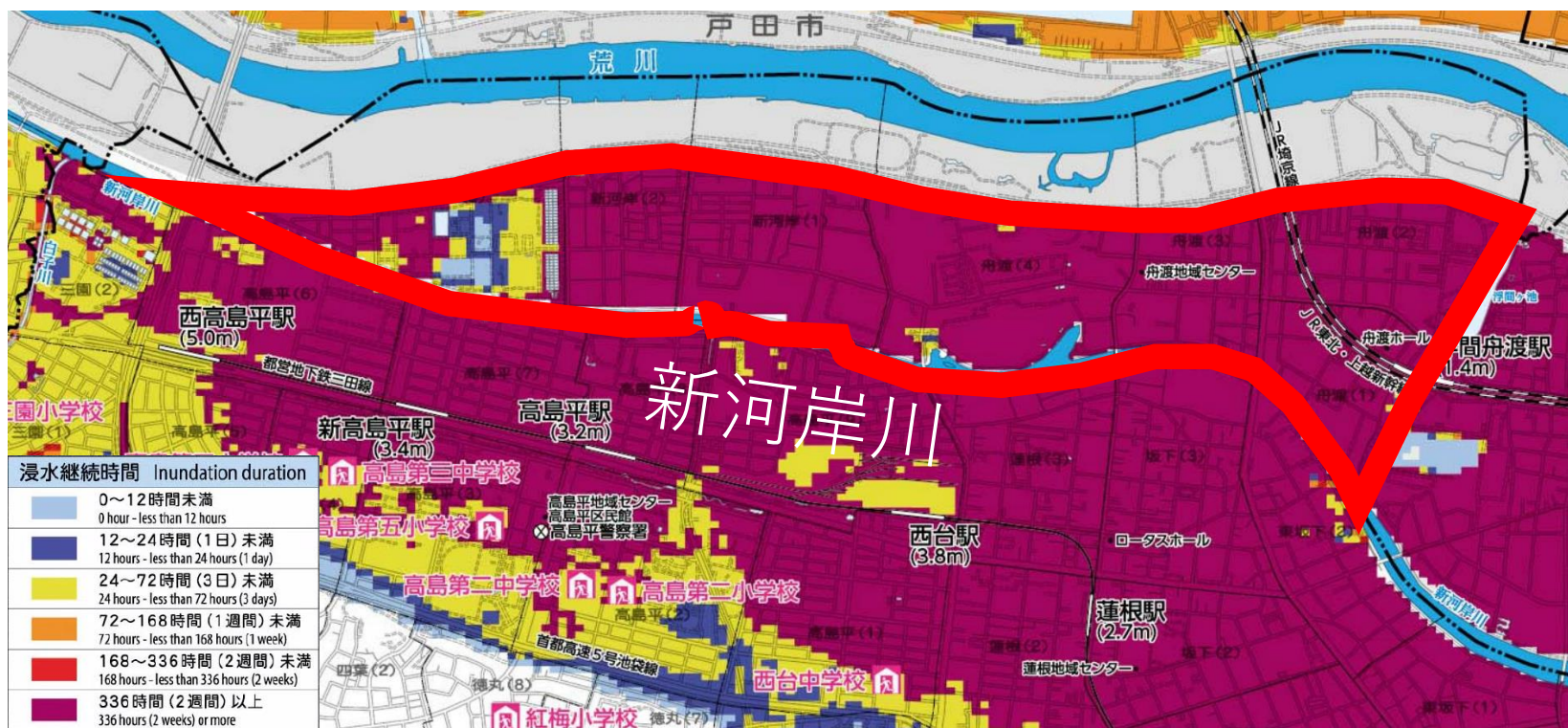
a:想定される浸水深



(3) 板橋区モデル地区の概況について

舟渡・新河岸地区

b:浸水継続時間



荒川河川敷活用した事業・地域資源

○いたばし花火大会（8月開催 来場者数約15万）

主催：板橋区

荒川堤防の斜面に整備されたスタンドなどを観客席として活用。対岸の戸田橋花火大会と併せて約1万2千発の花火が夜空を彩る。板橋区の夏の風物詩として定着しており区内外から約15万人が来場する。



○親子たこあげ大会

主催：板橋区（4月開催 参加者約5千人）

たこあげを通じて親子がふれあう人気イベント。普段は野球場として利用されている広大なスペースを利用している。先着でたこが無料配布され、親子の上げたカラフルなたこが、河川敷の青空いっぱいに広がる。



**防災面において安全性の充実は必要。
その一方地域資源としてポテンシャルは大きい。**

○板橋Cityマラソン（3月開催 参加者約1万5千人）

主催：板橋Cityマラソン実行委員会（板橋区、国土交通省荒川下流河川事務所、公益財団法人東京陸上競技協会、読売新聞社）

荒川河川敷内の河川管理用通路を走るコースとなっており、板橋区舟渡をスタート地点として北区、足立区、墨田区を走り、江戸川区で折り返すコースとなっている。



○荒川戸田橋緑地 生物生態園

（所在地 板橋区舟渡四丁目14番地先）

水辺や草地、ワンドに浮かぶ島のいろいろな生物を観察することができる。



板橋区かわまちづくりの取り組み

(現状1)

- ・荒川破堤時、地域のほぼ全域が5m以上の浸水深
- ・浸水継続時間は2週間以上と想定されている。

(対応)

高台まちづくりモデル地区選定＝国・都とともに、ハード・ソフト両面から防災まちづくりを推進

(対応の具現化)

防災面において安全性の充実が必要。

主にハード面の整備

(現状2)

地域資源としてポテンシャルは大きい。
(いたばし花火大会・板橋cityマラソン・親子たこあげ大会・戸田橋緑地生物生態園etc…)

利便性・にぎわい創出

かわまちづくり支援制度の活用

【全体コンセプト】

高台まちづくり
(防 災)



×

スポーツゾーン
(利便性向上)



【共通方針】

「かわまちづくり計画」：「かわ」と「まち」をつなぐ通路の確保（連絡通路）

【事業概要】

区立新河岸陸上競技場と河川敷を連絡通路で結び荒川洪水時の避難場所の確保及び堤防を活用した避難路の確保を図るほか、水際までをプロムナードでつなぐことで、利用者の健康増進、交流人口の増加を図っていく。

板橋区かわまちづくり計画の取組について

(全体像)



板橋区かわまちづくり計画の取組について

(連絡通路整備)

